豊饒の海を子供達に…
～復活を願った先に見えてきた光～

河内漁協　女性部　部長　村田むつ代

1．地域の概要

私たちが暮らしている河内町は、熊本県熊本市の北西部の海岸沿いに位置し、町の東には金峰山の峰々が連なって、西に向かって、なだらかな稜線を描きながら有明海に面する風光明媚な地域です。

私たちのかけがえのないふるさと…

この金峰山の裾野には、全国的にも有名な河内みかんの畑が一面に広がり、5月には一斉に咲いたみかんの花たちが、ここぞとばかりにかぐわしい香りを風に乗せて、町中がみかんの花の香りでいっぱいになります。

また、一面にノリ網が広がる有明海の向こうに見える雲仙岳に、夕日が沈んでいくさまは、まさに絶景で、この河内に暮らせることを幸せに感じる瞬間のひとつです。

2．漁業の概要

私たちが所属する河内漁業協同組合は、組合員232名からなり、流し網漁業なども盛んですが、主な漁業はノリ養殖で、合計102名の生産者がノリ養殖に従事している県内でも有数のノリ生産の拠点です。

その生産量は、ここ数年の平均で、約2億3千万枚を生産しており、県内のノリ生産量の約2割を占め、河内漁協は、熊本で一番、生産量が多い漁協です。

3．女性部組織及び運営

私たち河内漁協女性部は、昭和53年に組織され、現在は168名からなる組織で、各会員からの会費と組合からの助成金により運営し、毎年の勉強会には講師を招いたり、県の水産研究センターに訪れるなど自己研鑽に励んでいます。

4．活動課題選定の動機

皆さんご存じのとおり、有明海はかつて「宝の海」と呼ばれ、20年前はアサリで船がいっぱいになるほどの漁獲を揚げていました。しかし、河内地区でも昭和63年以降、突然、アサリは激減し、全くと言っていいほどアサリの姿を見なくなりました。

その後、河内漁協では、アサリの復活を願い、稚貝を撒いたり砂を入れたり、色々な努力を数年に渡り続けましたが一向にアサリは回復せず、15年以上もアサリの漁獲がない状況が続いたのです。

また、平成12年に起こったノリの大凶作は、皆さんも記憶に新しいところでしょう。

それ以降も、年々、ノリの色落ちが始まる時期が早くなり、良いノリが採れる時期はますます短くなっているような気がしているのは私だけではないと思います。

毎日、海に出て仕事をし、ずっと、「なんだか海がおかしいな」とは思っていましたが、はたして、自分に何ができるのだろうかと考える日々が続きました。そんなとき、河内校区の婦人会で長年取り組んできた活動にふれることが出来たのです。

そして、これはヒョッとしたら海でも出来ることなのではないかと考えたのです。

当時、河内校区婦人会では、平成5年からゴミの減量を目的に、生ゴミをたい肥化する活動に取り組み始め、その生ゴミを処理する際に発生する匂いを抑えるのにEM（Effective Micro organisms ：有用微生物群）活性液を使っていました。その時、EM活性液が有ると無いとでは、生ゴミの匂いに雲泥の差が出るので、EMの効果を実感し、ふと

…「生ゴミの匂いもなくなるとだけん、EMば川に流せば、川の悪臭もなくなるとじゃなかろか」…と考えた訳です。
町を流れる河内川は、かつて子供達が泳げるほどの清流でしたが、その当時は、悪臭を発するドブ川のように成り果てていました。
それが婦人会の地道な努力により、平成8年、全世帯の家庭排水からEM活性液を流すようになると、なんと、悪臭は消え…
その2年後の平成10年には、川にはアユが戻り、さらにはホタルが舞い飛ぶようにもなったのです。

5. 実践活動の状況及び成果

大規模なノリ不作が問題となった平成12年よりも前の、平成11年の6月に、私たちは港では、港内で発生するヘドロの悪臭で、大変、困っていましたので、私は漁協の了解を得て、港に40個の自分でつくったEM団子を投げ込んでみたのです。
このときはまさに、「素人は怖いもん知らず」です。
しかし、その4ヶ月後には悪臭を放つヘドロはほとんど無くなり、なんと、トビハゼやカニが動き回る干潟が戻ってきたのです。
このことで、海でも効果があると実感した私は、少しでも海を変えたいと思い、この活動を、漁協の女性部でも大規模に取り組めないかとお願いしたのです。
その頃は、平成12年、ちょうどノリ不作で苦しんだ直後でしたので、みんな、何かをしなきゃという気持ちがあったのでしょうね。
その年の秋に、漁協と女性部の仲間の協力を得て、ノリの支柱漁場に2万個のEM団子を撒くことが出来ました。
しかし、EM団子を撒いても、そんなスグに目に見える効果が現れるもんじゃありませんし、EM団子づくりは、手作業で非常に手間が掛かり、女性には厳しい力仕事も少なくありません。
この活動自体に疑問を持つ方も少なからずいらっしゃることも知っていましたが、私は、自分の経験で身をもってその効果を実感していましたし、何より漁協女性部の仲間も応援してくれましたので、自信を持って取り組むことが出来ました。

女性部でこの活動を開始した翌年、それまでは全くいなかったアサリが少しずつですが見え始め、活動開始から2年後の平成14年には、家庭で食べる分くらいの採貝ができ始めました。さらに、平成15年には、漁協の共販で出荷できるほどまでに、アサリが回復したのです。
皆さん、ご存じのとおり、アサリは海水をろ過し、海を浄化するスゴイ力があり、豊かな海を取り戻す主役達です…　私たちが取り組んできたこの活動も、少しはこの主役達の登場を手助けできたのではないかと自負しています。

6. 波及効果

漁協女性部で、この活動に取り組み始めて、今年で5年が経過しましたが、最近では思わぬ波及効果が現れ始めました。
私たちの地道な活動が認められて、平成14年からは女性部だけではなく、河内漁協全体の活動として取り組んで頂くことになったのです。
それまでは、力仕事も手作業も何から何まで、自分たちでやって来たのですが、今では、後継者クラブとノリ研究会、役員さんほか、多くの皆さんに協力して頂けるようになり、組合には活性液を自動で造ることが出来る発酵装置まで導入して貰うことが出来ました。

みんなで仲良くワイワイと…

力仕事が多い、EM団子づくりも後継者が積極的に協力してくれたり、船を出してく

れたりしますので、非常に効率が良くなりました。
　みんなで丸めた団子を、ジックリと発酵させると表面に白いカビが生えて完成で、この団子を、船で干潟漁場へ捲いてまわるのです。
　漁協全体でこの活動に取り組んで頂けるようになり、活動が効率的になったことも嬉しいのですが、それ以上に大事なことは、みんなでワイワイと楽しみながら、共通の目的で活動することの大切さです。

子供達も何かを感じとるようです…

　さらに、最近では、地域の小中学生も総合的な学習の一環として、EM団子づくりを体験するようになりました。
　この子達にとって、EM団子づくりは、まさに、ドロ遊びのような感覚でしょうが…
　何個も何個も団子を丸めていくうちに、彼らなりに何かを感じ取ることが出来るようです。
　彼らには、一度失われた環境を取り戻す難しさと、今の環境を守る大切さを学ぶ機会を提供することが出来たのではないでしょうか。

　また、私たち漁業者は、同じ海で仕事をしているのに、仕事以外の面では、なかなか男性の漁業者と真剣に話し合う機会、ましてや若い世代の後継者と話し合う機会など、意外と少ないものです。
　この活動を通じて、それまでは、話をしたこともなかった人や若い後継者など、多くの人たちと、豊かな海を取り戻すという共通の意識で、語り合う機会に恵まれるようになりました。
　この活動に取り組むようになってからは、地域全体で海を綺麗にしようという気運がますます盛り上がっていますし、何より、自分達の手で綺麗にした海を、誰も自分の手で汚そうとは思わないものです。
　みんなで海を共有して、漁場を共同管理して仕事をしているノリ養殖では、この一体感がとても大事なのです。

　この活動は、豊かな海を取り戻すという目的で始めたものですが、豊かな海を取り戻したいという「みんなの気持ちを奮い起こせたこと」が一番の成果だと、今では考えるようになりました。

7. 今後の計画と問題点

　私たちの後に続く、未来の子供達に、豊かな有明海を取り戻して残すには、各地域のみんなが一体感をもって協力し合うことが大切だと、この活動を通じて、あらためて実感することが出来ました。
　豊かな有明海を取り戻すには、まだまだ、たくさんの障害や、私たちの手に余るような大きな問題があることも知っています。
　しかし、宝の海を取り戻そうと思う気持ちは、海にたずさわる全ての人に共通の想いだと私は信じています。
　この想いが、全ての人たちの届くよう祈りながら、私たちはこれからも活動を続けていきたいと思います。